

美濃陶磁歴史館だより



連続 うちんたあのお宝、なんやね？
コラム 第28回 須恵器窯と美濃焼の始まり

〜隠居山須恵器窯・清安寺須恵器窯〜

美濃焼は土岐市民の皆さんにとっても身近なものです。美濃窯と美濃焼の始まりについてご存じの方は少ないのではないのでしょうか。実はその歴史はとも古く1400年前の飛鳥時代にまでさかのぼります。しかも美濃窯は日本の現存する窯業地の中では最古にして最大の窯業地なのです。

この美濃窯で最古の窯は、乙塚古墳の被葬者が導入に関わったと考えられる隠居山須恵器窯と清安寺須恵器窯とされています。ロクロを使って器を作り、その器を窯で焼く技術は須恵器に始まり、その技術が少しずつ形を変えながら現在の陶磁器生産まで受け継がれてきたことから、この須恵器窯を美濃焼の始まりとしているのです。

隠居山および清安寺須恵器窯は、7世紀前半に畿内系の技術を導入し

て始まり、当初は古墳の副葬品などが生産されました。その後、7世紀末〜8世紀初め頃になると隠居山須恵器窯では、今度は畿内ではなく尾張の猿投窯から技術を導入し、役所と寺院向けの製品が生産されました。当時の役所や豪族の居館、寺院は未発見ですが、隠居山からほど近い位置、乙塚古墳から見下ろすことのできる泉町域内にあったことと推定されています。

この隠居山須恵器窯と清安寺須恵器窯から採集された須恵器を、現在開催中の企画展「乙塚古墳とその時代」で展示中です。どちらかの窯で焼かれた可能性のある乙塚古墳の副葬品（鳥鈕蓋や焼成不良の高坏など）も一緒に展示しています。最初的美濃焼とはどういうものだったのか、ぜひその目でご覧になってみてください。



かめ甕 (7世紀前)
清安寺須恵器窯



つきみ
坏身 (7世紀前)
隠居山須恵器窯



すいびょう
水瓶と瓦
(7世紀末〜8世紀初)
隠居山須恵器窯

企画展
のご案内

美濃陶磁歴史館
(☎ ☎ 1245)